

2015年1月31日 12-17時

第2回超音波ガイド下神経ブロックトレーニングコース

@大阪医科大学 MSSC 報告書

①開催形態

開催協力部門：医療プロフェッショナル支援室

開催講座責任者：南敏明（大阪医科大学麻酔科学教室）

開催施設責任者：林 道廣（大阪医科大学附属病院医療技能シミュレーション室）

②インストラクター

コースコーディネーター

駒澤伸泰 大阪医科大学麻酔科学教室 MSSC

インストラクター

藤原俊介 大阪医科大学麻酔科学教室 医療プロフェッショナル支援室

上山博史 関西労災病院麻酔科部長

林英明 国立南大阪病院 部長

③参加者 30名

学内 22名

麻酔科レジデント・教員

学外参加 8名

岡波総合病院 2名

三島救急救命センター 2名

松下記念病院 1名

北摂総合病院 1名

第一東和会病院 1名

みどりヶ丘病院 1名

高槻赤十字病院 1名

十条リハビリテーション病院 1名

④コース内容と学習目標

12:15～12:30 開会の挨拶とコース案内 南 駒澤

12:30～13:30 体幹と下肢の超音波ガイド下神経ブロック、医療安全

13:40～17:00 ～ハンズオン～ 上山、林、駒澤、藤原

⑤開催風景

開会の挨拶 南敏明麻酔科教授



講義 上山博史先生 体幹ブロック 林英明先生 下肢ブロック

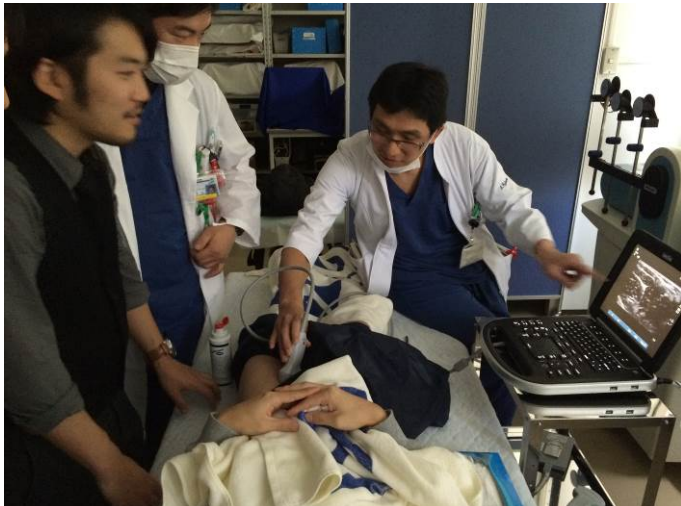
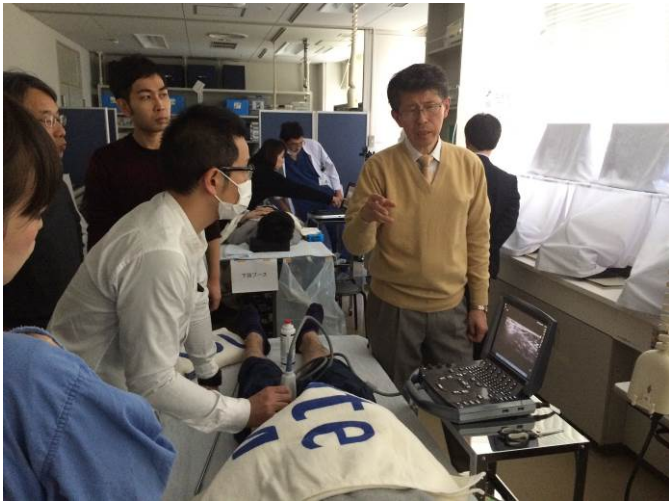




体幹の神経ブロック



下肢の神経ブロック



田中源重第一東和会病院院長代理の総括



全体集合写真



⑥開催後のアンケート

麻酔科の後期研修医からは、日常臨床業務の中で緊張しながら施行している超音波ガイド下神経ブロックの手技に関して、落ち着いた状況で反復して訓練することができたという意見が多かった。また、日常業務を行う関連病院ごとに手技や方法が若干異なるため、ディスカッションにより知識や留意点に対する新たな気づきを得たという意見もあった。参加した部長等の管理者からは教育関連病院全体で、スタンダードな手技と合併症への対応を学ぶ機会となった、自分が忘れていた確認事項を喚起することができた、稀だが重篤な合併症への対処を学ぶことができた、などの意見があった。全員が受講して良かったと回答した。

最後の教育病院群全体でのディスカッションでは、神経ブロック自体の知識獲得だけでなく、頻度の少ない危機的合併症に対する対処方法の討議ができ

たという意見が多かった。また、導入に当たり各診療科間とのコンセンサスの確立や合併症発生時の教育病院群全体での対策等の重要性が示唆された。

⑦今後の取り組み

教育病院群全体で超音波ガイド下神経ブロック講習会を行う事は円滑な導入や合併症対策を考える上で有効と考えられた。2015 年度も継続して超音波ガイド下神経ブロック講習会を開催したい。